



# がんセンターたより

## INDEX

■ がんゲノム医療で変化する白血病治療 ...	2・3
■ 新年度のご挨拶 .....	4
■ 就任のご挨拶 .....	5
■ 診療科部長・医長 就任のご挨拶 ...	6
■ 退職の挨拶 .....	7
■ 治験ニュース .....	8
■ 受診方法のご案内 .....	8
■ 編集後記 .....	8

— 地域の風景とともに、安心の医療を —

「小田原城の桜（小田原市）」

# がんゲノム医療で変化する 白血病治療

## 白血病治療は、ここまで進歩している

かつては「不治の病」の代表格であった白血病も様々な治療の進歩により完治し、社会復帰している患者さんが増えてきています。多くの検査法、治療法が開発されてきていますが、その中でゲノム医療についてご説明いたします。

## 白血病治療のこれまで

以前の白血病の診療は顕微鏡による形態学（見た目）による診断がなされており、その後染色体異常や一部の遺伝子異常を組み合わせた診断が行われるようになりました。これにより比較的治りやすいタイプから治りづらいタイプまで大まかな分類が可能になりました。この分類を治療に活かして、治りやすいタイプは抗がん剤治療を、治りづらいタイプに対してより強力な造血幹細胞移植が行われるようになりました。

## 白血 病 の 治 療 の ち が い

一人ひとりに合った治療を目指す「ゲノム医療」

白血病は、血液をつくる細胞の異常から起こる病気です

### これまでの治療（みんなに同じ治療）

年齢や体の状態などに合わせて、多くの患者さんに**同じ治療**を行います。



効果や副作用（体への負担）は人によってちがいます



「もっと自分に合う治療があればいいのに…」  
そんな声にこたえるのが、ゲノム医療です。

### ゲノム医療（それぞれに合った治療）

白血病の原因となっている遺伝子の特徴を調べて、**その人に合った治療**を選びます。



血液や骨髄の細胞を調べて、遺伝子の変化を見つけてみます。

どんな遺伝子の変化があるのかを詳しく調べます。

その人の遺伝子の変化に合わせて、より効果が期待できる治療を選びます。

効果が高く、副作用（体への負担）を減らせることを目指します。



### ゲノム医療のいいところ

- ✓ 自分に合った治療が選べることで、効果が期待できる
- ✓ 副作用（体への負担）を減らせる可能性がある
- ✓ 将来、もっとよい治療の選択肢が広がる

ただし、すべての人に有効な治療が見つかるわけではありません。

### まとめ

ゲノム医療は、遺伝子の情報をもとに、一人ひとりに合った治療を目指す新しい医療です。

より効果が期待できる治療を選べます

副作用を減らせる可能性があります

将来の治療の選択肢が広がります

## これからの白血病治療

これまで白血病診療では、多くの患者さんに対して決まった治療が行われてきました。しかし、白血病の原因となる遺伝子異常は患者さんごとに異なることが分かってきています。近年、がん細胞の遺伝子異常を広く効率的に調べ、その結果を診療に活かすがんゲノム医療が進展しています。血液疾患に特化した遺伝子パネル検査「ヘムサイト」は、452種類の遺伝子異常を一度に解析でき、2025年3月より保険適用となりました。分子標的薬を適切に用いるためにも、本検査の臨床的意義は高まっています。

### ゲノム情報が治療をどう変えたのか



## がんゲノム医療でできるようになったこと

白血病には非常に細かい診断、分類がありますがヘムサイトにより正確な診断ができるようになりました。また、正確な診断は正確な予後予測（治療の効きやすさ）を可能にしました。適切な分子標的薬も選びやすくなり、今まで以上に抗がん剤治療や造血幹細胞移植も適切に選択できるようになりました。

実際にヘムサイトの運用を始めて1年になりますが、従来の検査ではわからなかった治療が効きやすい遺伝子異常や効きづらい遺伝子異常が見つかった患者さんがいらっしゃいます。それぞれの患者さんに分子標的薬を使ったり、造血幹細胞移植を回避できたり、また速やかに造血幹細胞移植を行ったりして実際の治療に役立てています。

一方、ヘムサイトを行っても治療に役立つ遺伝子異常が見つからない方もいらっしゃいます。そのような患者さんも従来の検査で治療方針を決定できますので心配はいりません。

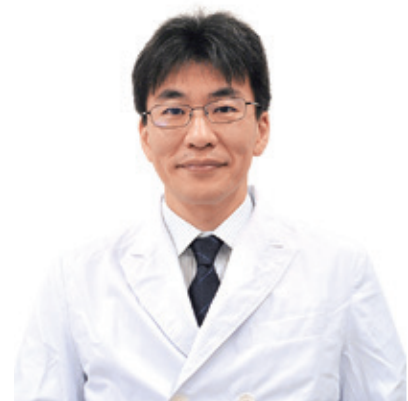
Voice

### 診療科部長のコメント

がん診療は日進月歩であり、白血病もその一つです。一人でも多くの患者さんが白血病を治癒し、元の生活を取り戻して欲しいと願っています。

当科では遺伝子パネル検査、分子標的薬、同種造血幹細胞移植を積極的に行っています。

セカンドオピニオンも受け付けています。お気軽にご相談下さい。



血液・腫瘍内科（血液）部長

田中 正嗣

## 新年度のご挨拶



2026年の新年度を迎えるにあたり、平素より神奈川県立がんセンターの診療や運営に対し、地域の医療機関や行政機関など多くの皆様から多大なご支援を賜っておりますことに、心より御礼申し上げます。

当センターは、がん専門病院として「患者さんの視点に立った最良のがん診療」の実践を軸に、専門性の高い医療の提供と地域連携の強化に取り組んでまいりました。今年度もその歩みを確実に継承しつつ、大きく変化する医療環境の中にあって、県民ならびに地域の医療機関の皆様から信頼され続ける病院であることを目指してまいります。

そのためには、人材育成と働きがいのある組織づくりが不可欠です。全職員が誇りと使命感を持って力を発揮できる環境を整え、地域医療機関の皆様と緊密に連携しながら、神奈川県全体のがん医療の向上に貢献してまいりたいと存じます。今年度も変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

総長 古瀬 純司

平素より当センターの診療に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

神奈川県立がんセンターは、患者さんの視点に立った最良のがん医療の実践を通じ、医療の発展と社会への貢献を使命としております。

近年、がん医療は日進月歩の発展を遂げており、その中で安心・安全で高度ながん医療の実現に向け、病院一丸となって取り組んでおります。

少子高齢化が進展する中、患者さん一人ひとりに最適ながん医療を提供するためには、地域の医療機関の皆様との連携がこれまで以上に重要です。

今後も患者さんを中心に、皆様と共に地域全体で支える医療体制の充実に努めてまいります。引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 酒井 リカ



## 就任のご挨拶

副事務局長

伊東 大介

2026年4月より、副事務局長として着任しました伊東大介です。

これまでは県職員として主に健康医療局で、専門職の方々と連携しながら、事務職の立場で事業の調整に携わり、直近2年間は、保健医療人材の確保・育成や県立保健福祉大学・看護専門学校の運営を担当しました。また、新型コロナの際は、リスクが高い自宅療養者を地域の医師・訪問看護師が見守る仕組み「地域療養のかながわモデル」を全県で展開しました。

これらの経験から、少子高齢化に伴い大きく変化する医療ニーズに、限られた人材で質の高い医療提供体制を構築していく大切さを実感しています。

今後は、当センターが、安全かつ患者様にとっての最良の医療を提供できるよう、医療者の皆様を下支えするため、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



副看護局長 兼 患者支援部副部長 兼 入退院センター長

古矢 尚子

2026年4月より、副看護局長 兼 患者支援部副部長 兼 入退院センター長を拝命いたしました、古矢尚子と申します。がんセンターには、3年ぶりに戻ってまいりました。

患者支援部は、緩和ケアセンター、がん相談支援センター、アピアランスセンター、入退院センター、医療福祉相談室の5部門で運営しております。

地域の医療機関の皆様方には、患者様のご紹介や療養調整等につきまして、日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

当センターのミッションであります「患者さんの視点に立った最良のがん診療」を実践し、医療の発展と社会への貢献ができるよう、今後も精進してまいりたいと存じます。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 診療科部長・医長 就任のご挨拶



消化器外科（肝胆膵）部長  
松山 隆生

2026年4月より消化器外科（肝胆膵）の部長を拝命いたしました松山隆生です。1998年に愛媛大学を卒業し、横浜市立大学の第二外科学教室（現 消化器・腫瘍外科学教室）に入局しました。直近19年間は大学病院で主に進行した胆道癌・膵臓癌の外科手術に従事してまいりました。胆道癌・膵臓癌には不治の病のイメージが大きいと思います。しかし、ここ10年における胆道癌・膵臓癌に対する化学療法や放射線治療の進歩は目覚ましいものがあります。現在ではこれらの治療と外科手術を組み合わせた集学的治療で治療成績の改善を図っています。肝胆膵疾患は術前診断が非常に困難です。腫瘍マーカーの軽微な上昇、超音波所見の異常など疑わし所見を認めた際にはお気軽に当科へご紹介ください。

2026年4月より脳神経外科医長を拝命いたしました大島聡人と申します。当科ではグリオーマや転移性脳腫瘍をはじめとする脳腫瘍の手術加療を専門とし、最大限の摘出と機能温存を追求しております。また、症例に応じたがんゲノム診断の積極的な活用により、精緻な個別化医療を推進するとともに、再発悪性神経膠腫を対象とした臨床試験も実施しております。放射線治療科や腫瘍内科との密な連携のもと、地域の先生方と一体となり最善の集学的治療を提供すべく邁進する所存です。脳腫瘍が疑われる際には、ぜひ当科へご紹介ください。何卒よろしく願いいたします。



脳神経外科医長  
大島 聡人



精神腫瘍科医長  
鈴木 将裕

2026年4月より精神腫瘍科医長を拝命致しました鈴木将裕と申します。これまでは横浜市立大学附属病院、横浜医療センター、横浜南共済病院、横浜市南部病院にて勤務して参りました。この10年ほどは緩和ケアチームに所属し、多職種のスタッフの方と共同して患者様の入院加療のバックアップをして参りました。今後も当センターでがん治療を受けられる患者様が安心して医療を受けられるようサポートして参りたいと思っています。何卒宜しく願い致します。

## 退職の挨拶

### ●消化器外科（肝胆膵）部長 山本 直人

このたび3月末をもって当センターを退職することとなりました。2003年に修練医として入職して以来、のべ3度にわたり勤務し、2023年からは部長として診療に携わらせていただきました。地域医療機関の先生方やスタッフの皆様のご支援のもと、膵癌・胆道癌・肝臓癌の診療や臨床研究に取り組むことができました。これまで賜りましたご厚情に心より感謝申し上げます。今後とも当センター肝胆膵外科をよろしくお願い申し上げます。



### ●脳神経外科部長 佐藤 秀光

このたび退任することとなりました脳神経外科の佐藤秀光です。21年前に当センターに赴任し、途中2年間横浜市大へ出向後、11年前より部長を務めてまいりました。最終年度にはDPC・診療報酬検討会議の議長を拝命し、がん患者指導管理料の算定推進など収益改善に微力ながら尽力いたしました。DPC通信もご愛読いただき感謝申し上げます。基盤は整えたつもりです。今後は皆様に託します。ありがとうございました。



### ●精神腫瘍科部長 横尾 美乃里

2026年3月の退職を前に、ご挨拶させていただきます。地域医療機関の先生方、スタッフの皆さま、そして何より通っていただいた患者さんご家族の皆さま、この場を借りて心より感謝申し上げます。これからも、患者さんがご本人らしくがん医療にとりくめますよう、精神面からのサポートをつづけたく、後任の医師につなぎたいと思います。ひきつづき、ご指導のいただけますと幸いです。どうもありがとうございました。



治験  
ニュース

当センターでは、募集中の治験等の情報をホームページに掲載しています。トップページから右上の「治験・臨床研究」をクリック後、「治験一覧」をご覧ください。左記のQRコードからもアクセス可能です。



HPはこちらから

募集中の治験情報 (疾患別・2026年3月25日時点)

①非小細胞肺がん	27件	⑩肝細胞がん	1件
②固形がん	7件	⑪神経内分泌がん	1件
③胆道がん	8件	⑫多発性骨髄腫	1件
④膀胱がん	5件	⑬B細胞性非ホジキンリンパ腫	3件
⑤再発悪性神経膠腫	1件	⑭乳がん	6件
⑥胃がん	3件	⑮頭頸部扁平上皮癌	1件
⑦食道がん	2件	⑯卵巣がん	1件
⑧直腸がん	2件		
⑨ NSCLC、メラノーマ、HNSCC、GC、CRC、ESCC	1件		


※同じ疾患でも対象が異なる場合があります。詳細はホームページをご確認ください。  
※掲載していない治験もあるため、気になる疾患がありましたら、お電話等でお問い合わせください。

受診方法のご案内

予約  
方法

神奈川県立がんセンターは、紹介予約制を採っています。患者さんに紹介状をお渡しいただき、下記電話番号へ予約申し込みするようにお伝えください。

初診予約 (がん相談支援センター)

 **045-520-2204** (医療機関専用)

 **045-520-2210** (患者さん専用)

受付時間 8:30~17:00

インターネット  
予約申込ページは  
こちら



編集後記

新年度を迎え、新メンバーの紹介とともに、がん専門病院ならではの「白血病治療」についてご紹介しました。がんゲノム医療の導入により、多くのがん種で患者さん一人ひとりに最適な治療が広がりつつあり、白血病においてもその恩恵が得られています。病院とかかりつけ医の連携は診療報酬改定においても強く推進されており、私たちはより専門的な治療に専念しつつ、地域医療機関との連携を一層深めてまいります。それを支えるのは人と人とのつながりであり、本誌が皆さまの理解の一助となれば幸いです。

副院長兼地域連携室長 岸田 健